

どうして糖尿病になるの？

糖尿病はインスリンが出にくくなったり、はたらきが悪くなることで血糖値の調節が難しくなる病気です。症状がないことも多いですが、血糖値が高い状態がずっと続くと、やがて合併症が現れて生活が制限されたり、命を落とす危険もあります。上手に糖尿病と付き合しましょう。

糖尿病の病態は、野球のバッテリーにたとえて説明できます。

膵臓、インスリン、血糖の関係



インスリン



インスリンの効くところ
(肝臓、筋肉、膵臓)

膵臓のβ細胞
(インスリンを分泌する細胞)

血糖値が上がると、ピッチャー(膵β細胞)がインスリンというボールを投げます。肝臓、筋肉、膵臓のキャッチャーがボールを受け取ると、血管の中の血糖を取り込むので血糖値が下がります。

2型糖尿病で、インスリンの分泌が低下するタイプ



インスリン



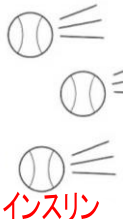
インスリンの効くところ
(肝臓、筋肉、膵臓)

膵臓のβ細胞
(インスリンを分泌する細胞)

血糖値が上がっても、ピッチャーがボールを上手に投げられなくなるタイプです。

薬を用いるとすれば、ピッチャーを叱咤激励するタイプの薬を選択します。ただし、ピッチャーが早く疲弊する可能性があります。

2型糖尿病で、インスリンの効きが悪い(インスリン抵抗性)タイプ



インスリン



インスリンの効くところ
(肝臓、筋肉、膵臓)

膵臓のβ細胞
(インスリンを分泌する細胞)

キャッチャーが下手でボールを上手にキャッチできない状態です。しかし、ピッチャーは元気で、ボールをどんどん投げられるためインスリン過剰となります。肥満の人が多いため、食事療法と運動療法が基本です。薬を用いるとすれば、キャッチャーの調子をよくするインスリン抵抗性改善薬を用います。

2型糖尿病の特徴

発症・経過	徐々に血糖値が上昇し、糖尿病に至るが、発症後も慢性の経過をとるため、 自覚症状がない こともしばしばある。
発症のきっかけ	過食、運動量の低下、肥満、清涼飲料水の多飲など。
発症年齢	中高年の発症が多いが、 小児や若年でも増加傾向 。
家族歴	しばしば認める。
膵島関連自己抗体	陰性
内因性インスリン分泌能	インスリン分泌低下から過剰までさまざまだが、高度低下～枯渇例は少ない。